

## 「『言葉』の大切さを考える」

4月の学校は、新入生はもちろん、上級生や職員も、新しい「出会い」に期待と不安が入り混じっています。

摩気小学校の人権旬間は年2回。1回目はそんな1学期の初めに設定しています。

今年是人と人の心をつなぐ『言葉』について考えることにしました。気持ちの良い言葉づかいをすることによって、仲良く楽しい学校生活を送れる態度を養おうと取り組みました。

**フ** ピール集会」では人の気持ちになる言葉を「ちくちく言葉」と名付けて紹介し、「ほかほか言葉」をいっぱい増やそうと呼びかけました。

私が担当する1年生に、「どんな言葉を言われたらうれしいですか?」と尋ねると、「おはよう」「いってきます」「おかえり」「ただいま」「おやすみ」などの毎日のあいさつがありました。もちろん、「ありがとう」「ごめんね」「いっしょにあそぼう」など、かわりをより深める言葉も

あがったのですが、初めてあがってきたのがあいさつだったのは、意外でした。裏返すとそれだけあいさつは小さい子どもたちにも伝わる大切な言葉なのだを再認識しました。

夏休み前の懇談会では、「子どもから注意されますのや。『お父さん、それはちくちく言葉やで』と」「昔は言葉について、こんな教育は受けてこなかったと思いますが、最近はこのことも教えるのですね」という感想を聞かせてもらいました。

**大** 人は日々、「言葉のシャワー」を受け流すことなく、人と人の心をつなぐ『言葉』について子どもたちと共に考え、教えていく責任があると感じています。

(摩気小学校 人権教育主任

岩崎 ひろみ)



市内で発見した感謝のエコ活動を紹介します。



8月1日  
「そのべ夏まつり」でのソーラーカー試乗体験。(写真) 訪れた親子や小学生を

乗せて元気に走りました。  
このソーラーカーは元八木中学校教諭、谷口信政さん(亀岡市)の作で、10年以上同校の授業で活躍し、大切にされてきました。

同校には平成7年度に太陽光発電設備が設置。その時生徒らが身近に見られるようにと2枚のソーラーパネルが用意されました。谷口先生は「ただ見るだけでは面白くない。何か動くものを作って電気と環境にもっと関心を持つ

てほしい」と願い、古くなった印刷機やゴーカート、自転車などの部品から試行錯誤を重ね、2年後にこのソーラーカーを完成させました。  
先生の異動後、南丹市に寄付されて今年4月から市内のイベントで活躍しています。

### 今回のエコポイント

試乗体験をされた方に感想(①)と環境への心掛け(②)を尋ねてみました。



日下部整子さん・奈緒さん(小3)

①意外に速く走ったのでびっくり!②夏はクーラーの温度設定を考えるよう心掛けています。



水口宙くん(小5)

①とてもエコな車だなあと思いました。②電気をつけっぱなしにしないようにしています。

(環境課)